

ベネズエラ、野党の現状

12月28日、ベネズエラの中道保守系の新聞、グロボビシオン紙が、グアイドーの目は消えたという厳しい記事を掲載しました。それは、次のような内容で、全文記載します。

引用開始

19.12.28 グロボビシオン紙

腐敗、スキャンダル、傲慢さにより、フアン・グアイドーの星は消えた

出典：Globovisión/ Brakthy Gabriel Urdaneta -12 12-28-2019 12:43 PM

国会（AN）の議長であるフアン・グアイドーは、2019年の初め、ベネズエラにおける政府の交代を促進しようとする運動の首謀者として、指導力と力強さを示したが、現在、次のような無限の不都合さに直面しており、それらは、すでに目に見えて損なわれている。



グアイドーは、ニコラス・マドゥーロ大統領による「権力の篡奪」と見なされる状況を終わらせることを、最初から執拗に表明してきたが、現在、依然として正当に機能している国の行政機関の能力をどんなに過小評価していたか、今では、反省している。

したがって、グアイドーは、現在の大統領に対するボリバル国軍（FANB）の忠誠心を破壊しようとしたが、それは確固たるものであることを理解するに至り、このことが、今、彼の最も代表的な障害となっている。

今年も終わりそうになっている時、状況は、野党のかつての指導者には良くない。なぜなら、彼が2019年1月から熱烈に受けた国際的な支援と米国政府によって科された制裁は、望むべき破綻を引き起こしていないし、また、別の期限切れとなってしまった約束で提起された野心を実現する必要もあるからである。

グアイドーが招集するデモは、結集力はなくなっており、また、グアイドーの人気の低迷と、彼と、ベネズエラの過激派野党のお偉方の雪崩をうつ腐敗を強調することでない限りは、もはや国際メディアの表紙を飾ることはない。

国会における地位の終焉

2020年1月5日、フアン・グアイドーは、国会の議長としての任期を終了するので、数ヶ月前から、起こりうる彼の代替についての議論が聞かれている。そしてそれは彼に対する長い非難のリストとなっている。

最近では、彼のコロンビアの代理人、ウンベルト・カルデロン・ベルティの一方的かつ相談もしない解任が目立っている。カルデロンは、人道支援の異常性と不適切な運営（別の関係国会議員による）を、また、薬や食料を入手するのが難しいベネズエラ国民に約束された資金の不正行為を非難したのである。

腐敗、隠蔽工作、裏切り

また、国境地域で活動しているコロンビアの準軍事組織グループ「ロス・ラストロホス」の指導者たちと、またグアイドーがポーズを取っている数枚の写真が世界に出回っているものたちとの癒着もカルデロンは強調している。

それだけでは不十分であるかのように、最近、国会の監査委員会の5人のメンバーと、最も過激な野党、人民意志党、正義第一党、新時代党の国会議員を含む9人の国会議員による暗い隠蔽捜査への参加が明らかとなった。

その上、米国の移民拘留センターから、国軍 FANB の複数の脱落軍人によって行われた数々の抗議が明らかになったことがある。これは、彼らに保護を約束した米国の人物が、事件に関与しなかったことはありえないという、反論である。このことは、ウーゴ・パルラ・マルティネス少佐の事例ではっきりしている。彼は、米国に亡命を求めに行ったが、それに対して身分証明書不所持として逮捕された。今年の1月から2月にかけてパルラ・マルティネスは、蜂起の大義に献身したが、今では反省した口調で次のように述べている。「罨にはまり、落ちるところまで落ちた。家族、家、すべてを失った。私がしたことは何の価値もない。抜け道が見えない」。

星は消えた

グアイドーにとって、2020年の予測は、肯定的ではない。彼は、最初は、無条件に国際的な支援を受け、ベネズエラ政府に逮捕されることを恐れなかった。人気を得ていると陶醉したが、今では、その人気は本当のものでなく、死産であったし、敵を過小評価する誤りを犯したことを、また、星は消滅したことを、今や認めなければならない。

引用終わり。

中道保守系新聞としては、かなり厳しい内容ですが、特にウルダネータ記者の独自の議論ではありません。12月3日付のロイター通信は、これまでの配信にはみられないような「焦

点：ベネズエラ野党指導者（グアイドー）に失速懸念 大統領打倒に汚職の逆風。ニコラス・マドゥロー大統領の打倒をめざすベネズエラ野党指導者フアン・グアイドー氏が、新たな難題に直面している。野党議員に収賄疑惑が持ち上がったためだ。幻滅したベネズエラ国民の間には、グアイドー氏の「旬」は過ぎたのではないかとの疑念も広がっている」という記事を配信しました。

さらに、12月4日保守系の世論調査会社メガアナリシスは、次のような世論調査結果を発表しています。

グアイドー議長を支持するか

- 最早支持しない 68.5%
- 一度も支持したことはない 12.9%
- 今でも支持している 10.3%
- わからない 8.2%
- 不支持合計 85.3%

国会（従来の）を支持するか

- 支持しない 85.3%
- 支持する 11.4%
- わからない 3.2%

グアイドーが招集するデモに参加するか

- 参加しない 84.8%
- 参加する 10.9%
- わからない 4.2%

このように、グアイドー、野党の支持は、急落し、国民は、与野党の話し合いによる自主的な経済再建、新たな国会選挙をのぞんでいるのです。グローブビジョン紙や、世論調査に見られる野党の低迷の原因を、キューバの治安・諜報部による監視体制、拷問という立論に依拠するのは、そういう事実はないことは、キューバ、ベネズエラ両政府から再三再四否定されているものですし、議論の最初の出所は米CIAであるだけに、まったくの暴論です。

(2019年12月31日 新藤通弘)